



第21号

東京鳩会

題字は初代会長笠井正人氏



会報

長野県立屋代高等学校
発行：東京鳩会事務局



平成24年度
東京鳩会 会長挨拶
会長 柿崎正義



〆挨拶
屋代高校同窓会長
宮崎和順



不易なるもの
校長 高橋康人

東京鳩会の皆様、こんにちは。2012年は例年になく猛暑、オリンピック開催、竹島・尖閣列島問題と社会が大きく揺れ動いた年でした。今年も東京鳩会総会が開催できることを大変に嬉しく思います。この会が隆盛であることは、会員皆様の協力と努力もありますが、屋高の卒業を通じて個々の皆様が企業や行政、地域社会で積み重ねて実力を発揮していることが理由の一つではないかと思えます。誇りを持てる東京鳩会があることは、卒業生にとつて幸せなことと思えます。昨年の総会は、新役員の新企画で始まり、徳武雪子氏(高35)のソプラノ独唱と美声に感動しました。私たちは、これから先輩方に続く人材を育てていかなければなりません。「継続は力なり」という形を通じて、ネットワークを強化することで若手や女性会員に参加してもらい活動を活性化してゆきたい。今年の総会では、主企画として赤沢啓子氏(東京芸大音楽科卒、屋高、赤澤光則氏(高二十二回)の夫人)ソプラノ独唱会を開催致します。多数の方に感激と感動を与えることができると思えます。今後とも東京鳩会の皆様にはご協力をお願いしたいと思えます。

東京鳩会の皆様におかれましては、お元気でご活躍のことと拝察申し上げます。また日頃のご支援に心から御礼申し上げます。母校屋代高校は来年初創立90周年を迎えます。記念事業として同窓会館建設等を計画しており、寄付をお願いします。その折は宜しく願います。同窓会としましては、付属中学校開校も記念事業の一つとして取り組んで参りました。付属中学校の現状について申し上げます。本年4月5日午前開校式、午後には高校と合同で入学式を行い、特に開校式には県知事も出席される等期待の大きさを感ずりました。また、4月24日付属中学校新校舎(木造2階建)上棟式には、中学生の体験学習を兼ねて楽しく行われ、上棟式に参加することにより自分たちの置かれている立場を、改めて認識したのもと思えます。そして、7月9日新校舎に移転、「新しい革袋に新しい酒」という言葉どおり、新付属中学生は感動したものだと思えます。

柿崎会長はじめ東京鳩会の皆様方におかれましては、平素から本校の教育活動全般にわたり温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。さて「質実剛健」「文武両道」の不易なる校是のもと、屋代に集う若者達は元気に日々を過ごしております。昨年度卒業生は現役の国公立大学合格者が百二十三名という県内トップクラスの実績を積み上げてくれました。また班活動でも本年度のインターハイに、男子ハンドボール・男子剣道個人の二競技で出場を果たすと共に、文化班ではギター・マンドリン班が全国大会で昨年に引き続き優秀賞受賞に輝きました。中高一貫教育につきましては本年度八十名の初々しい一期生達が、六倍を超え難関を突破して入学してまいりました。八月には木の香漂う中学棟が完成し、新たな環境の下で、元気に学んでおります。

長い伝統を有する「魂の故郷屋代」において、中学生高校生が共に切磋琢磨し合い、豊かな学校文化を創り出し、日々の学びを力強く社会還元できるように、今後とも鋭意努力を重ねて参りたいと思えます。結びに東京鳩会の更なるご発展をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

雑感

昭和の遺言

中学十八回生 中條高徳

私達が生まれた昭和初年は大恐慌で皆貧しかった。約五百年続いた白人達による植民地化の最終戦とも云える日露戦争から22年後のことであった。貧しいけれどみな凛として生きていた。軍人の道を進むのが当然のように四修で陸士に進んだ。教育総監からの合格電報の感動は今だに忘れられない。志半ばで敗戦。

故郷屋代に大本営を置く「国土決戦」對應で浅間山麓で敗戦の日を迎えた。陸士の先輩達は「貴様たち若者は死を急ぐな、再建日本の為に働け」と叫んで自決していった。死んだつもりで生きようと心に誓い、靖国神社のすぐ近くに居を構えた。

GHQから追放もされ、四年かけて旧制松本高校に学び直したのも大収穫であった。松崎一教授という屋中出身の名物教授がいた。安倍能成なる哲学者の門下生となり学習院にも学んだ。転落のアサヒの指挿する日もやってきた。「死んだつもり」で兵法に学んで挑戦したら日本一になった。今85才を迎え翻弄された運命にひたすら感謝する日々である。アサヒビール株式会社 名誉顧問 名譽顧問

六十才からの食生活について

高校二回生 宇野 忠

私は、八十才を越えました。が大学卒業後銀行からスタート、三つの事業で計五十三年に亘る勤務を終え、現在は厚生年金基金の顧問をしています。長い勤務生活の結果か、年間

諸会合が多く、同年代の会合時は健康問題が中心課題となります。幸いにも私は現在迄病院通いをしたことがなく何時もどんな食事をしておるか説明を求められています。六十代になってからの食生活は、御飯は一日三食共茶碗半分とし、ビタミン豊富な野菜中心に、魚と肉はバランスを考え、旬の好物をいただく事にしていきます。特に朝は、欠かさずバナナ半分とリンゴ1/4を朝食前に取り、夜は必ず牛乳を350cc飲んでます。牛乳については、私が屋代東高当時、政治家尾崎先生と出逢い、先生は自分の健康の基礎は牛乳であると強調され、それ以降、牛乳は私の健康の土台となりました。人生は層の上で六十才還暦から九段階あり、私は四段階目の傘寿をクリアしました。米寿を目指し頑張っています。以上還暦からの食生活について申し述べました。最後になりましたが鳩会会員の皆様も健康に留意され、鳩会が益々発展されます事を心よりお祈り申し上げます。

この春、母校では県立高校で初の付属中学校が誕生して中高一貫校がスタートしたとの事、誠にめでたうございませう。中学新入生の立派な成長を心からお祈り申し上げます。私達、高校4回卒業生は県立屋代中学校に終戦直後、昭和二十一年四月に旧制中学校最後の学年として入学した。その後の学制改革で併設中学校、屋代東高校と経て昭和二十七年三月卒業するまで6年間の中高一貫教育の体験者である。まさに子供から大人への大事な成長期の六年間であり、テニ

スや野球を楽しむ、良く遊んだことが一番に思い出される。三年毎の細切れで、受験勉強に励まされる事もなく、将来の夢を大きく描き、貴重な友人も出来、人生のかけがえの無い時代であった。今年で中学校に入学以来六十六年の歳月が経て七十九歳の誕生日を迎える年になった。同期会では毎年、春は上山田温泉で、秋には第一法規軽井沢寮で一夜を語り合い、翌日には鳩四回ゴルフ会を一日を楽しむ会を二十余年は続けている。

今年九月九日一泊して翌十日、浅間高原カントリー倶楽部にてゴルフ会を開催した。長年その世話役としてご苦労頂いている、井口勲君、佐治不康正君、北村信久君、久保田孔炳君、宮坂力君、湯本和夫君、塚田茂雄君等々に感謝、感謝である。今年のゴルフ会参加者は記念写真の通り。



趣味に生きる

高校七回生 中條 良

十数年前、定年を迎えた時、私はこれまで仕事の傍ら趣味として続けて来たものを、第二の人生の中心に据えて積極的な生き方をしようと考えた。それは、ゴルフ、囲碁、合唱の三つのGであったが、その後地域の自治会長や民生委員などを務めたあとの現在では、ゴルフはウォーキングに変

平成23年度 総会出席者名簿

敬称略・50音順

中18回	小出 武男	宮坂 謙三
高1回	片山 久	小林 一美
	瀬在 幸安	戸矢崎 哲
	長谷川正視	
高2回	荒川 永	宇野 忠
	近藤 成敏	田中 榮
	塚田 欣司	水澤 雄也
高4回	井口 勲	市川 保雄
	左治木康正	田中 芳春
	堀内 良一	山澤 武彦
	柳澤 朋夫	山本 守夫
高7回	恩田乾次郎	春原欣之助
	田中 勇雄	田中 茂
	田中 清人	宮林 敬幸
	宮尾 徹	吉村 弘
高8回	渡利 敏弘	
	新井 繁	池田 孝
	太田 聡	笠井 源吾
	春日 巖	北澤 俊美
	武井 武	竹前 皓司
	長岡 繁人	中村 富家
	西澤 勇人	堀田 育男
	丸山 實	南澤 克人
	富入 明	宮本 英男
高9回	柿崎 正義	宮城 宏成
	田中 功臣	中澤 好邦
高11回	西村 孝雄	橋本 欽也
	相澤 正志	大日方広夫
	高松 雄行	親松 逸雄
高12回	千野 郁雄	中澤 嘉雄
	古川 克治	
高13回	安藤 公裕	
高14回	河口 陽	中山 宣子
高15回	仁科 取	
	木谷 孝	
高17回	伊藤 哲司	岡田 正夫
	重見 善明	廣田 正文
高18回	北川 正次	倉科 悦子
	田中 豊允	柳澤 久
高19回	山内 重光	
	菊池 修治	倉島 洋二
高20回	松林モトキ	
	伊東 博道	小林 明美
	長谷川 優	水澤 恒男
高21回	峯村 栄広	中沢 正人
	赤澤 光則	岸田 幸博
高22回	高橋 修	
高26回	大田 友和	
高29回	神野 明久	
高33回	舟山 幸	
高34回	山本 隆章	
高35回	小山田 浩	田辺美津子
	徳武 雪子	森村たまき

総会 レポート

第二十九回東京鳩会総会が平成二十四年二月十七日(金)ホテルグランドヒル市ヶ谷「白樺の間」に於いて約百名の参加者で開催。



幹事長 河口 収氏

河口幹事長(高十四回)の司会で始まり、仁科氏(高十四回)のリードのもと、土田信子さ



リード役 仁科 陽氏

んのピアノ伴奏で校歌を斉唱。今年度逝去された同窓生と昨年の東日本大震災で亡くなら



ピアノ伴奏 土田信子 さん

れた方々に黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りした。



東京鳩会会長 柿崎正義氏

柿崎会長(高九回)はご臨席頂いたご来賓への謝意を述べられ、役員、会員の皆様のご協力により今日を迎えられた事への感謝の言葉が述べられた。加えて東京鳩会の今後を鑑み、若い世代の参加を促す試み



事務局長 山内豊司 氏

の一つとして、懇親会のメインイベントとしてソプラノ歌手・徳武雪子さん(高三十五回)の独唱会を企画。当会の益々の発展を確信しているとのこと強い言葉で締めくくられた。

最後に山内書記長(高十八回)より第二十三期の事業・活動報告、及び決算・監査報告があり拍手で承認され、引き続き第二十四期の事業計画案、予算案、役員監事案、規約改正案も承認され第一部総会は無事に終了した。



司会者 岡田正夫 氏

第二部懇親会は岡田氏の(高十七回)司会で徳武雪子さん(高三十五回)の独唱に先立ち母校同窓会赤地副会長より徳



同窓会副会長 赤地憲一 氏

武さんとピアノ伴奏者土田さんの紹介があり、日本歌曲「浜千鳥」「山のかえり道」「早春賦」、オペラ曲から「うるわしい光」がソプラノの美声で歌唱されました。会場は拍手喝



ソプラノ 歌手 徳武雪子 さん

さいの中、お二人に花束贈呈。ソプラノ独唱会は大好評を博した。

松林氏(高十九回)の音頭で



乾杯 松林モトキ 氏

乾杯、今回は若い世代が集うテーブルも用意され、少しお酒の入ったところで来賓のご紹介・ご挨拶。宮崎和順同窓会長からは同窓会館の建設計画、中



同窓会長 宮崎和順 氏

高一貫校指定までのプロセス等のお話があり、高橋康人学校長からは母校が県内唯一の中高一貫校に指定され、併設中学校の今春開校に向けて最後の準備をしていると聞きました。



学校長 高橋康人 氏

最後に元防衛大臣・北沢俊美氏(高八回)より東日本大震災後の活動について被災者の救



元防衛大臣 北沢俊美 氏

出 行方不明者の捜索、遺体収容等に陸・海・空自衛隊合わせて十万人態勢の指揮を執り、被災地の困難な責務に全力であたられたと話された。

特別スピーチとして瀨在幸安氏(高一回)より天皇陛下の「心臓バイパス手術」につい



元日大総長 瀨在幸安 氏

て天皇陛下の執刀医は瀨在氏の教え子で、手術の成功率は九十九・三パーセントで、盲腸の手術より高いとの事。瀨在氏は一九七〇年に日本で初めての「心臓バイパス手術」を行った外科学者で、日本環境動脈外科学会創設以来理事長職も歴任されており、日本において「心臓バイパス手術」の第一人者です。



元全日本女子柔道監督 柳澤 久 氏

全日本女子柔道の強化に長年携わってこられた柳澤氏(高十八回)からは日本女子柔道のロンドンオリンピックでのメダルの可能性についての話があり、また母校柔道部女子二名が全国大会に出場すると述べられた。



応援歌のリード役 高橋 修 氏

会も終わりに近づき高橋氏(高二十二回)のリードで、信濃の国、応援歌、東の空に、北斗の星、を声高らかに斉唱し、会は最高の盛り上がりを見せました。最後に西村氏(高十一



閉会の辞 西村孝雄 氏

回)より閉会の挨拶、懇親会は成功裡に終了お開きとなった。



総会風景



出演者に花束贈呈



応援歌を熱唱



若い世代の面々とコーナー

東京鳩会 第29回会計(決算)報告 (自平成23年4月1日～平成24年3月31日) 単位:円

収入金額		支出金額	
繰越金	239,458	総会費用	761,173
年会費	552,000	イベント、土産代	129,300
総会参加費	696,000	事務費	116,750
祝儀	20,000	会報印刷費、送料	215,209
		幹事・役員活動費	101,460
		通信費	87,034
		雑費	29,300
合計金額	¥1,507,458	合計金額	¥1,440,226
繰越金額			¥67,232

東京鳩会ゴルフ会 (T・H・G)

第57回

東京鳩会ゴルフコンペ報告

平成24年10月9日(火) 秋晴れではありませんでした。ゴルフ日和に恵まれ紫カントリークラブあやめ西コースで行われました。

参加者がやや少なく11名で少し残念でしたが、和やかに楽しい一日でした。

優勝は82歳の最長老戸矢崎哲さん(中一21)でした。スコア96(47・49)、ネット72でした。

戸矢崎先輩はお仕事もまだ現役で頑張っているらしいので、スイングは若々しく飛距離もたいしたものですね。

さて、次回(58回)は平成25年4月23日(火) 紫カントリーあやめ西コースで行います。

乗用カートですので、楽にまわれます。参加できる方は幹事までお知らせ下さい。

幹事 浅野井 真(高13) (E: oecma@dimh.or.jp)

東京鳩会ホームページ

東京鳩会のホームページにて、総会出欠の返事も出来ますので、下記アドレスにアクセスして下さい。そのほか皆様からの情報や投稿を随時お待ちしております。

またホームページ編集委員を募集しています。メールでご連絡下さい。

<http://www.t-hato.jp> メール: info@t-hato.jp

編集後記

会員各位のご協力・寄稿等により第二十一号の会報出版できました事を感謝申し上げます。本年4月本校付属中学校開校がありました。今年は猛暑・残暑が長く厳しい月日でしたが、秋分の頃には涼しくなり、例年は九月二十三日(秋分の日)が本年は天文学・太陽暦等により九月二十二日が秋分の日でした。これは明治初期以来の事であり二十世紀前期は閏年(四年)、中期は三年に一度、後期は二年になるそうです。七十年余現世にいと昭和・平成になり年月が早足で過ぎていきます。今後は若手会員の参加・活動を期待・お願い申し上げます。

千野都雄